

特集 「周術期管理チーム」

巻 頭 言

京都府立医科大学大学院医学研究科

麻酔科学

佐 和 貞 治



平成30年度の京都府立医科大学附属病院の臨床指標によると、年間新規入院患者数は17,030名に対して手術件数は8,504件であり、うち麻酔手術データベースによる麻酔科管理手術件数は5,392件であった。1入院に一人の対象患者に対して複数手術が行われることもあるが、稀であることから、新規入院患者のうち49.9%近い患者が手術のために本院を訪れ、31.7%近い入院患者が麻酔科管理の手術を受けることとなる。つまり、約3分の1の新規入院患者は手術入院患者である。厚労省は、今から10年前の平成21年8月に、「チーム医療を推進するため、日本の実情に即した医師と看護師等との協働・連携の在り方等について検討を行う」ことを目的にチーム医療の推進に関する検討会を発足させて、報告書としてまとめるに至った（厚生労働省、チーム医療の推進について（チーム医療の推進に関する検討会 報告書）<https://www.mhlw.go.jp/shingi/2010/03/dl/s0319-9a.pdf> 平成22年3月19日、2019年6月15日アクセス。）。チーム医療の目的は、「近代の医療は専門分化が進む一方、患者の望む医療も多様化しており、高度に

進歩した専門的医療を患者の「生活」につなげることが重要であり、これに対処するためには、高い専門性を持つメディカルスタッフが連携しつつ、適切に補完し合うことが不可欠」ということである。栄養サポートチーム、呼吸ケアチーム、緩和ケアチーム加算などはもとより、さらに口腔ケアや薬剤指導管理など、コメディカル部門による周術期管理体制の充実により、より確実に迅速な患者の病気からの回復を促し、平均在院日数短縮、そして医療費の削減等につながる方向に診療報酬体系の改訂も進んできている。大学附属病院は、時代の変革に対応して、特定機能病院として先進的な医療に取り組むことが重要であり、そのために必要な改革を推進していく必要がある。今回の特集を通じて、周術期チーム医療に関わる患者の病気からの早期回復を追求する取り組みや考え方について、麻酔科、歯科口腔外科、薬剤部、リハビリテーション部、疼痛緩和科の臨床各部門に投稿を頂いた。今回の企画が周術期チーム医療の在り方について、学術的な観点からも今後の布石となることを期待する。

